kaspersky

Kaspersky Embedded Security System 3.1

デフォルト拒否 許可リスト型 挙動説明（初期値　起動拒否）

2022年4月13日

株式会社カスペルスキー
セールスエンジニアリング本部

V1.1

アプリケーション起動コントロール

Kaspersky Embedded Systems Security

起動コントロールには二つのモードがあります。
- 統計のみ（ログのみで起動を止めない）
- 処理を実行（ルール通りに、起動とブロックを制御）

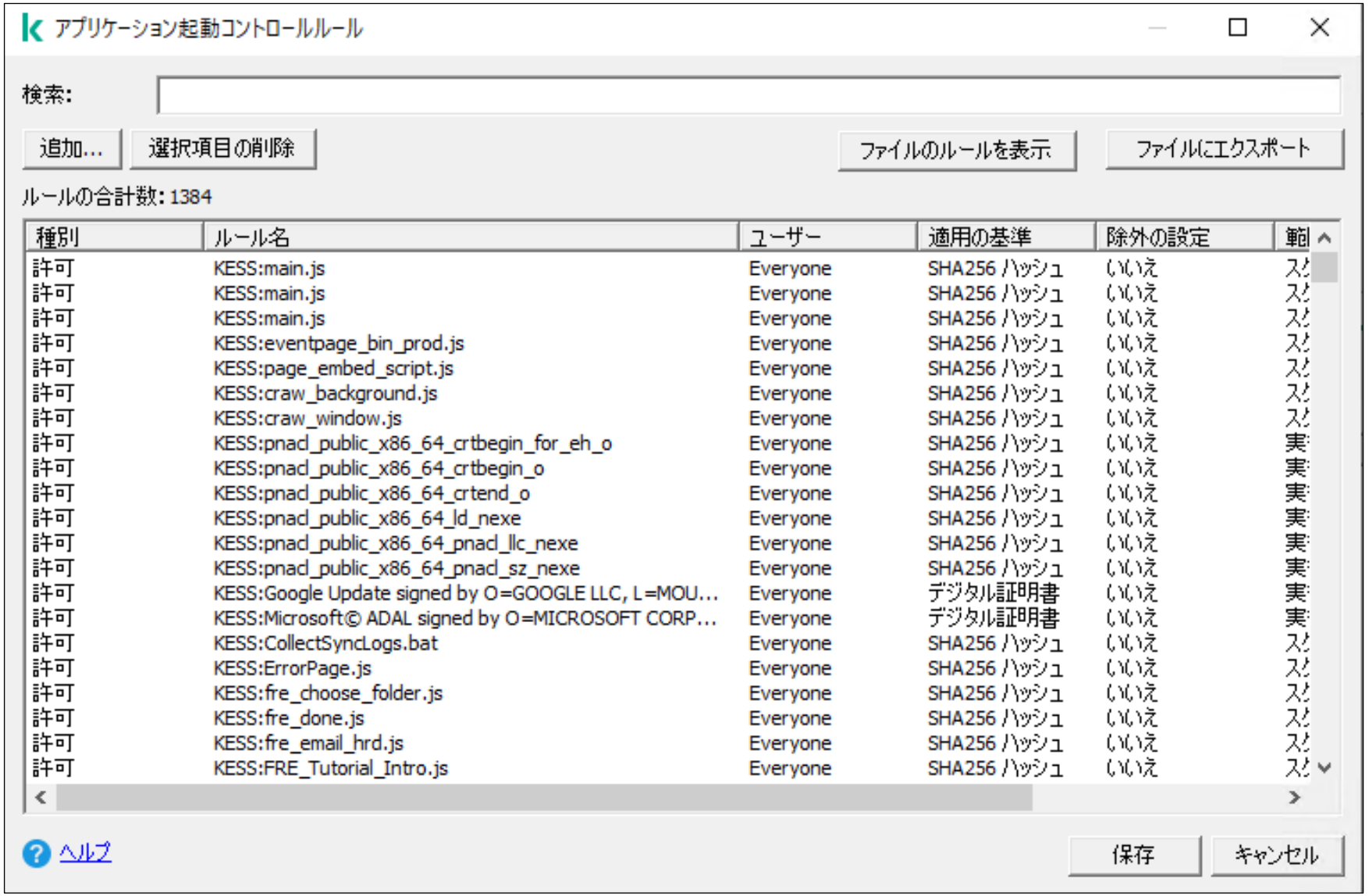
- アプリケーション起動コントロールルールに記述されたルールに従って、アプリケーションの起動がコントロールされます。

- ルールは証明書、ハッシュ値、ファイルパスなどで指定します。
- ルール作成は主に3つの方法で行うことが出来ます。
  - ✓ アプリケーション起動コントロールルールの自動生成タスク
  - ✓ ログから自動作成
  - ✓ 手動

kaspersky

アプリケーション起動コントロールルール

Kaspersky Embedded Systems Security



kaspersky

アプリケーション起動コントロールルール　詳細

Kaspersky Embedded Systems Security

「実行ファイル」、
「MSI・スクリプト」の指定

証明書による指定

ハッシュ値による指定

除外ルール

例えば、ルールを許可で証明書を指定し、
同じ証明書を使う特定のアプリケーションだけを
ブロックする

kaspersky

Kaspersky
Embedded
Systems
Security

デフォルトで作成されているルールについて

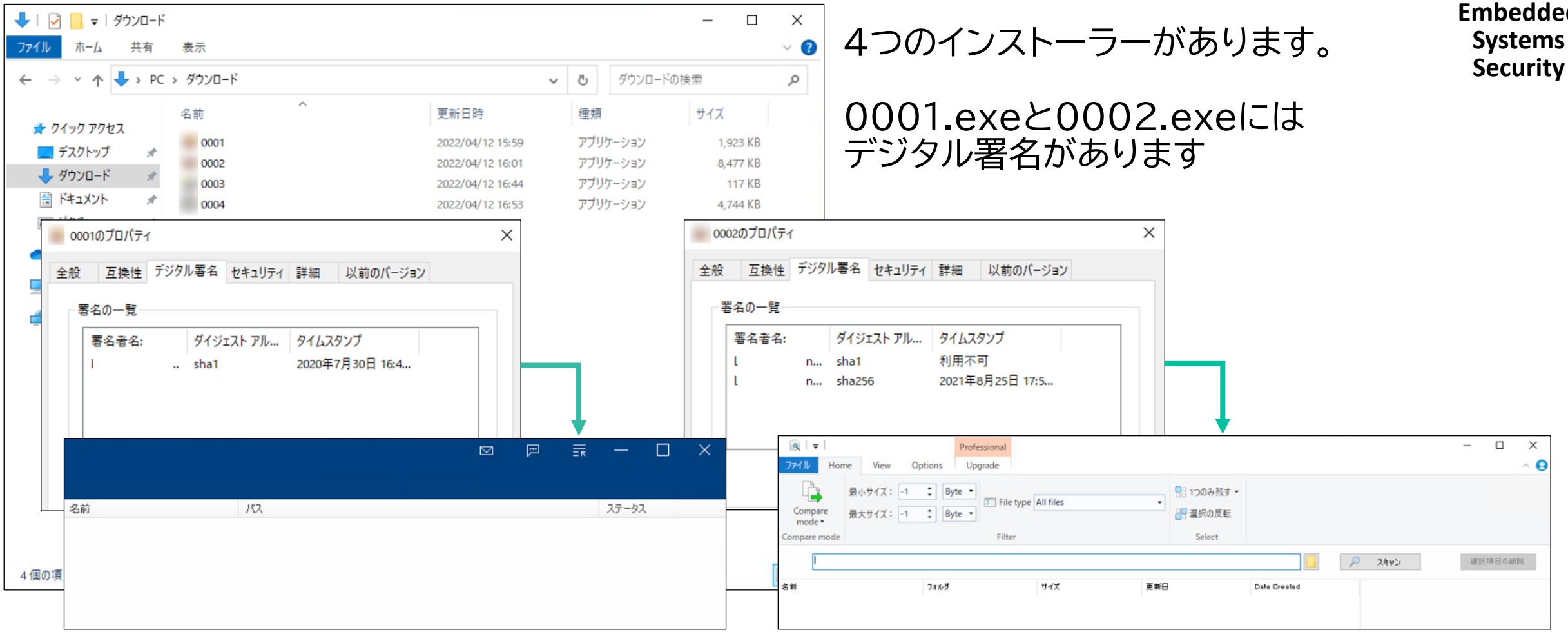
kaspersky

アプリケーション起動コントロールルール

デフォルトで作成されているルールについて
デジタル署名がされているアプリケーション(インストーラーを含む)・スクリプトは、このルールにより実行可能になります。

デジタル署名があるアプリケーションは許可する場合には、このルールを残し、
明示的に許可したアプリケーションのみを許可する場合には、このルールを削除します。
削除する場合は、必要なルールで置き換えるか、ルールを追加した後に削除します。

デフォルトで作成されているルール　挙動例



4つのインストーラーがあります。

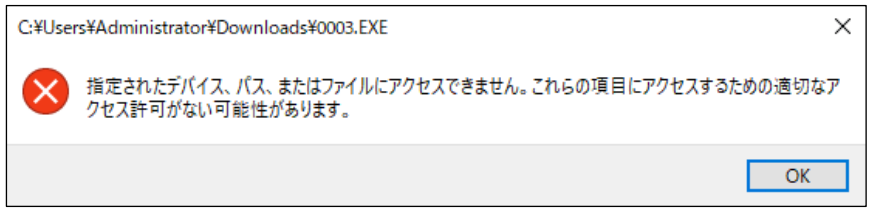
0001.exeと0002.exeには
デジタル署名があります

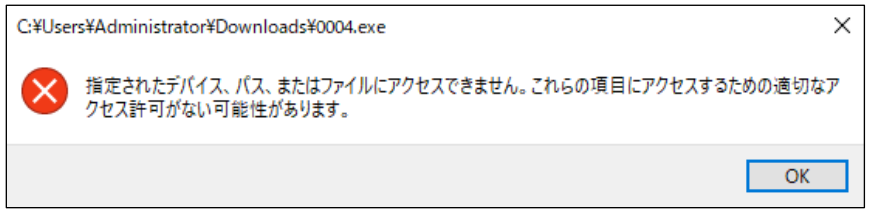
0001.exeと0002.exeは起動に成功します。

デフォルトで作成されているルール　挙動例

0003.exeと0004.exeには
デジタル署名がありません。

0003.exeと0004.exeは、起動がブロックされます。





kaspersky